

令和2年度仁木町地域おこし協力隊活動報告書

氏名	福光 賢治	活動年数	2年
活動目標	<p><u>1. ワインぶどうの栽培・醸造技術の習得（継続）</u></p> <p>(1) 地元生産者の下での農業研修への参加 (2) 道内ワイナリーでの醸造研修への参加（継続） (3) 各種研修・セミナーへの参加</p> <p><u>2. 農地の取得、経営計画の作成および栽培開始準備</u></p> <p>(1) 農地の取得・確保 (2) 営農計画・資金計画の作成・提出 (3) ぶどう苗木の発注</p> <p><u>3. 委託醸造によるワイン製造および販売テストの実施検討</u></p> <p>(1) 醸造用ぶどう購入による委託醸造の可能性検討 (2) 販路の検討および酒販免許の取得</p> <p><u>4. 地域活動への参画と情報発信</u></p> <p>(1) 地域おこし協力隊活動の可視化 (2) 地域イベント・地域活動への貢献</p>		
活動内容	<p><u>1. ワインぶどうの栽培・醸造技術の習得（継続）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培研修先：余市町 木村農園 ・期間：5月26日～12月26日 ・内容：ピノノワール、シャルドネ、ケルナー、ピノグリ、ピノムニエ等の栽培管理（芽かき・誘引・摘芯・収穫・剪定等） <ul style="list-style-type: none"> ・醸造研修先①：岩見沢市 10R ワイナリー ・期間：9月14日～11月30日 ・内容：ココファーム製品・自社製品・委託醸造分の醸造作業全般（仕込み・発酵チェック・分析・瓶詰め・衛生管理等） <ul style="list-style-type: none"> ・醸造研修先②：余市町 リタファーム&ワイナリー ・期間：1月4日～2月5日 ・内容：澱引き・瓶詰め・出荷準備・クラフトビール仕込み等 <ul style="list-style-type: none"> ・知識研修：北海道ワインアカデミー栽培コース 		

- ・期間：6月25日～2月12日
- ・内容：座学による講義および道内生産者圃場見学等
- ・その他参加した研修・セミナー：
 - 7/23・24 小型車両系建設機械講習（札幌コベルコ教習所）
 - 1/18～3/17 大澄かほる氏ハーブ講座（zoom・積丹実習）
 - 2/16 北海道醸造用ぶどうセミナー
「フランス SICAVAC のぶどう仕立てと剪定法」（zoom）
 - 2/28 厚真町セミナー「atsuma96%の次なる挑戦」（zoom）
 - 3/16 地域おこし協力隊ワークショップ「SNS スキルアップ講座」（札幌）
 - 3/19 日本ワイナリー協会分析セミナー（zoom）
 - 3/26 放牧酪農シンポジウム（zoom）
 - 3/27 日本ワインブドウ栽培協会アルバリーニョセミナー（YouTube）

2. 農地の取得、経営計画の作成および栽培開始準備

- ・取得農地：仁木町東町12丁目・16丁目
(畑・山林 計7筆 3.46ha、3組の地権者より取得)
- ・取得の経緯：上記農地の一部は前年より地権者が売却意向を示していたが、地域の農業委員を通じてヒアリングを行う中で、隣接地の地権者も売却意向があることが確認され、計3ha強の営農に適した面積が確保できると判明。並行して日照・水利等周辺環境の確認を行い、8月下旬に地権者との譲渡交渉を進め、同意をいただくに至る。
- ・営農計画等：仁木町産業課農政係および新おたる農協金融共済課のご指導により作成、9月上旬提出
- ・農用地利用集積計画（所有権移転）：農業委員会総会にて9月29日承認
- ・青年等就農計画：10月1日認定
- ・経営改善資金計画：2月17日認定
- ・経営体強化育成資金：3月19日融資
- ・果樹経営支援対策整備事業（改植補助金）等申請：2月25日提出
- ・その他営農準備：
 - 令和3年（次年度）作付け分苗木注文（ピノノワール 300本）
 - 令和4年（次々年度）作付け分苗木注文（ピノノワール、シャルドネ他）
 - 土壌分析依頼、防風林伐採見積依頼、資材類・農機具・工具類購入検討等

3. 委託醸造によるワイン製造および販売テストの実施検討

※令和 2 年初頭に農地取得交渉をしていた生産者からの農地取得を見送ったことにより、同農地からの原料ぶどう調達の可能性もなくなり、本テーマは実施検討するに至らなかった。今後は 3～4 年後に自己の圃場で収穫したぶどうの委託醸造を検討することになる。

4. 地域活動への参画と情報発信

- ・8/17 フルーツパークにきゴミ拾い
- ・9/8 町道 1 番線ゴミ拾い
- ・2/7 消防団除雪ボランティア参加
- ・Facebook への活動状況のコンスタントな投稿

※地域イベントは、コロナにより殆どが中止となったため、参加はなし。

■所感・考察

・活動 2 年目となり、栽培・醸造ともに道内でも有数の（つまり国内でもトップクラスの）実力者のもとで研修を受ける機会を得た。単に作業をこなすという段階から、実践内容についての根拠・理由の理解が大きく前進し、それぞれの研修終了時には大きな達成感を得ることができた。

・農業研修先は、家族経営で約 8ha の比較的大きな圃場を管理されている農家で、作業の優先順位や品種ごとの作業内容の違いに触れることができた。自分の場合は個人経営となるので、「自分ならどこまでやるか？実際にできるか？」を常に考えながら作業を行なうことができた。

・10R ワイナリーでの醸造研修は、現地に 2 か月半滞在して行われたが、仕込みのシーズンの作業は農作業以上にハードなものであった。肉体労働と神経を使う作業の両方が 1 日の中で目まぐるしく交錯し、それが夜遅くまで続くこともあり、体調を崩す研修生もいたが、自分は何とか乗りきることができた。醸造現場の作業の大半は機材や設備・排水溝の洗浄（水仕事）であり、衛生管理は徹底していた。醸造現場における「原理・原則の徹底」を学べたと思う。

・仕込みの過程を体験することによって、逆に畑での作業の重要性が再認識できたのもよかった。収穫したぶどうに病果などの課題があるほど、ワインにしていける際の方向性や選択肢が限定され、結果的に添加物の投入量も増えていく。素直に「畑をしっかりとやろう」と思えた。

・多くの研修生や委託醸造元の生産者が集まる 10R ワイナリーでの醸造研修や、北海道ワインアカデミーへの参加を通じて、道内の新規生産者との面識が広がった。仁木・余市に比べて環境的にシビアな地域でも果敢にチャレンジしている生産者からは大きな勇気をいただいている。ぶどうの穂木を希望する他地域の生産者に、当方の研修先の農家を紹介するなど、協力関係も徐々に築くことができている。

・冬期にはワイン関係だけでなく、興味があった他分野のセミナー（ハーブ栽培、林業、放牧型酪農等）を受講し、これらも貴重な学びとなった。時節柄、オンラインでの実施が大半であったが、地理的な制約がなくなることで、逆に受講するテーマを広げられたかもしれない。今後、新規就農するにあたり、ワインぶどう栽培に限定せず、広く農業分野で挑戦してみたいテーマについての知見が得られた。

・農地取得については、当初交渉していた生産者からの取得をいったん見送り、改めて既存の農地情報をサーベイし直す中で、隣接地も含めた農地の新情報が浮上してきた。周囲の農家にヒアリングを行い、水道などの周辺インフラの課題も十分認識した上で取得の判断ができたので、自分なりに納得している。地権者の方が3組に渡ったが、皆さん快く譲ってくださり、交渉がスムーズに進んだのも、何かのご縁だと思う。

・営農計画・融資については、コロナ禍の中で申請から融資がおりるまで6ヶ月もの時間がかかったが、資金が必要なタイミングに間に合うことができ安堵している。ただ、公的金融機関への融資申請手続きは比較的時間を要するものであるため、機動的な資金調達という面では不向きな点もあることも学べた。大型の設備投資資金については、かなり事前に見通しを立て、融資申請していくことが重要である。営農初年度ということで、運転資金等の見通しが十分でなかったのは、反省点である。

・ぶどうの苗木については、当初予定していた令和4年（次々年度）作付け分を無事発注でき、さらに幸運にも令和3年春（次年度）に作付け可能なピノワールの苗木300本（約15a分）も一年前倒して入手できるメドが立った。この2年間で農業研修先を含む数多くの生産者の圃場を見て回り、今期は10Rワイナリーで委託醸造元の生産者が持ち込む多様な品種のぶどうの仕込みを経験することで、自分が作りたい品種を明確にすることができた。同時に、近年の苗木入手難が緩和されつつあることも実感した。

・冬期には苗木業者とともに研修先農家にて剪定後の穂木採集を行い、苗木業者とコミュニケーションを取りやすい関係を築くとともに、苗木を生産する側の事情

	<p>(例：接木するための穂木の入手が難しい品種があること、接木生産の作業スケジュール等) についても知る事ができた。</p> <p>・次年度、圃場整備と一部作付けを開始するにあたり、様々な業者の方との交渉の機会も増え、結果的に仕事を依頼したり資材・農機具類を購入したりする業者の見極め方も少し掴めてきたと思う。コストによる業者選定も重要なが、それ以上にコミュニケーションを通じて重要な情報や知識を提供してくれる業者との関係が大切だと感じている。</p> <p>・地域活動への参加・貢献については、機会は限られたが、一定の実践はできたものと思う。2度の清掃活動では、隊員間の連絡・調整係を自主的に担った。除雪活動では、地元消防署員・消防団(町民)の方々とともに作業する機会が得られ、さらに雪国での生活や住宅のあり方について学ぶことが多く、有意義であった。今後は、地域おこし協力隊の活動のみならず、農業関係での地域活動(草刈り等)も増えていくと予想されるが、積極的に参加していきたい。</p>
自己評価	<p>●一年間の自己評価及び進捗状況</p> <p>予定していたテーマについてそれぞれ深く学ぶことができ、かつ農地の取得も実現して、次年度からの新規就農の見通しが立ったのは非常に大きな前進であった。十分満足できる状況だと思う。</p> <p>●活動初年度からの自己評価及び進捗状況</p> <p>何もかもが思惑通りということではないが、着任時点で描いていた計画に大きな遅れもなく、地域に根付いて生業を起こしていく準備が進められていると思う。「ワイン生産者になる」というのが主要な目標であることに変わりはないものの、農業や地方での生活をより広い視点で考えられるようになってきている。ビジネスライクに捉えれば、もっとスピードを速めるやり方もあるだろうが、2年間の研修は決して長過ぎるということはなく、長期的にやっていく上での知識や経験を得るために必要な期間だったと思う(まだ十分とは言えないが)。逆に拙速で進めることでのリスクやコストの増大もあと感じている。</p>
抱負	<p>・次年度より就農し、農家1年生としてスタートする。本格的な作付けは次々年度以降(地域おこし協力隊退任後)を予定しているので、まずはじっくりと圃場整備に取り組んでいく。今後3カ年のワインぶどうの作付け計画はもちろん、取得した約3.5haの畑・山林の全体をどのように活用していくか、ワイン生産者としての独自色の打ち出し方等、実際の圃場整備を通じてイメージを具体化していきたい。</p> <p>・自社畑のぶどうによるワインのリリースは早くも3~4年後になるが、何よりもその前提となるワインぶどうの栽培を軌道に乗せることと、退任後しばらく続くと予想される無収入期間の生活が当面の最優先課題となる。ワイナリー(醸造設備)の設</p>

	置も当初の目標にはあるが、投資規模と自身の今後のワイン生産者としての活動期間も考慮しつつ、適切なタイミングで投資判断を行いたい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・小型車両系建設機械（整地等）運転特別教育 修了
活動写真	<p>■栽培研修（春：芽かき、秋：収穫、冬：枝下ろし）</p>  <p>■醸造研修（新タンク搬入、樽移送、クヴェヴリ発酵チェック、瓶詰め）</p>  <p>■北海道ワインアカデミー（講義、受講生圃場見学、土壌分析、醸造施設見学）</p>  <p>■地域活動（除雪ボランティア）</p> 